

令和2年度情報モラル教育推進会議は、新型コロナウイルス感染症対策拡大防止のため、部会ごとの開催となりました。今年度の各部会ごとの活動状況と次年度への課題等を報告いたします。

1 家庭における推進検討部会の取組について

令和2年度の活動	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報モラルに関する家庭向けリーフレットを作成し、市立小中学校児童生徒の全家庭に配付 2 抽出校を対象に、活用状況についてアンケート調査を試行
リーフレットの活用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・リーフレットの活用・取組状況は、小学校 74.5%、中学校 76.3%であった。 ・「情報モラルについて親と話をした」児童生徒の割合は、小学校 47.2%、中学校 54.9%であった。 ・「情報モラルについて関心が高まった（正しい使い方をもっと知りたい）」児童生徒の割合は小学校で 56.7%、中学校で 64.1%であった。 ・「ネットトラブルに気をつけようと思った」児童生徒の割合は、小学校で 82.8%、中学校で 84.8%であった。 ・「家庭内でルールを作った」児童生徒の割合に「すでにルールが作られていた」と回答した割合を合わせると、小学校で 67.3%、中学校で 66.6%であった。
次年度のリーフレット作成について	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGAスクール構想と関連させたものにするとうい。 ・文字を減らし、クイズやゲーム的に親子で取り組めるもの、親が目止める一面を入れるとうい。 ・情報のモラルについて「親子での対話の契機となるような資料を提供する」という、今年度の枠組みは継続した方がよい。 ・メディアリテラシーを問いながら、望ましい使い方を親子で考えさせたい。
アドバイザーからの指導助言	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の情報モラル指導は、「どうすればいいのか」「どうするとよりよくなるのか」というリテラシーやノウハウを示すことが大切になると思う。 ・児童生徒に対するアンケートによる啓発・検証の継続は必要。さらに、保護者へのアンケートも実施した方がよい。 ・情報モラル教育の普及推進の問題は、多様な家庭環境にあると思う。教育局だけでなく子供未来局等との連携が望まれる。

2 学校における推進検討部会の取組について

令和2年度の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教育担当者連絡協議会における、プログラミング教育の授業づくり研修の実施。 ・タブレット端末活用校連絡協議会における、1人1台端末環境を想定した今後の課題の整理。
活動の具体	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報教育担当者連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・オンデマンド研修として開催。 ・上記研修は、タブレット端末活用校におけるプログラミング教育の授業動画と有識者による情報活用能力育成に係るプログラミング教育についての解説動画の配信を行った。 2 タブレット端末活用校連絡協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・1人1台環境における情報活用能力の育成について、オンライン学習体験やガイドラインの作成を通して検討した。
今年度の活動を踏まえた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1台端末では、日常的な利用、場所を限定しない利用を想定し、操作技能に関することや、情報モラル・情報セキュリティに関する事柄について、これまで以上に情報教育の充実を図る必要がある。 ・学校が自校の実情に合った適切なガイドライン等の作成ができるように校内ガイドライン作成の手順や参考例を示すなど、教育委員会として支援を行う必要がある。 ・1人1台端末活用における情報モラル・情報セキュリティ教育を普段の学習を通して身に付けることのできる情報活用能力の育成の在り方について検討する必要がある。

3 次年度に向けて

- ・GIGAスクールにおける情報活用能力（情報モラルを含む）の育成においても、保護者への情報提供の充実を図りながら、共に進めていくことが大切である。
- ・情報モラルや情報セキュリティは、1人が1台ずつ端末を使う時代に入る。子供たちは、端末を使う経験を通して試行錯誤しながら学びを深めていくことになる。情報活用能力（情報モラルを含む）の大切さを、自分事として受け止め、主体的に課題に取り組む力を育てることが求められる。